

喜界町



# 議会だより

172号

平成30年8月1日発行



主  
な  
内  
容

一般会計補正予算	2
一般質問に2名が登壇	4
奄美群島議会議員大会報告	6
現地視察研修報告	7
所管事務調査報告	8
諸般の報告	11
読者の声・編集後記	12



発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会

〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地

TEL:0997(65)1115・FAX兼用

平成30年第1回定例会は、6月4から11日までの8日間で開催されました。

初日は、一般質問（議員2名登壇）。承認12件、報告5件。議案1件を採択。平成30年度一般会計補正予算・条例3件・陳情1件については、各常任委員会に付託しました。

最終本会議には、平成30年度喜界町一般会計補正予算、条例等4件、追加提案された工事請負契約2件、発委1件を原案のとおり可決しました。

# 一般会計補正予算1号

## 1億1600万追加（総額66億1205万）

### ◆ 補正予算の主なもの

担当課	事業内容	説明	金額
企画課	トークイベント企画制作 業務委託料	大河ドラマ西郷どんで村田新八役の俳優堀井新太さんを招いてのトークイベント開催のため	190万円
			
堀井新太さんトークイベント			
	地方創生関連事業 喜界馬プロジェクト補助金	喜界馬復活に継続して取り組むための飼育、研修費等	70万円
			
喜界馬			
	ジオパーク推進事業	喜界町を一つの公園と考え地質、地形等を保全・観光・教育の同じ方向性で活用するため	210万円

担当課	事業内容	説明	金額
農業振興課	農林技術員連絡協議会 負担金	日本一に輝いた鹿児島黒牛をアピールするため	100万円
	 <p data-bbox="796 819 991 851">日本一効果畜産業</p>		
	農業共済等加入促進 事業補助金	災害に備え、強い農業を目指すために農業共済加入促進を計るため	180万円
	 <p data-bbox="738 1444 1031 1476">共済担当の石原 良貴 さん</p>		
	農地・農業用施設復旧費	さとうきび収穫後、新たに見つかった災害復旧のため	7500万円
	 <p data-bbox="504 2072 702 2103">整備進む災害現場</p>  <p data-bbox="1077 2072 1203 2103">一本道開通</p>		



# 一般質問

## 町政のことが聞きたい

第2回定例会で2名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する  
良岡 理一郎 議員

### 喜界空港搭乗待合室にトイレを設置すべき

【質要】

空港では48人乗り新型機の就航にともない搭乗待合室を建設しスムーズに搭乗できるように改善されている。利用者には好評である。

しかし、搭乗待合室にはトイレが設置されていない。トイレ利用者は保安検査場を戻って既存施設のトイレ利用を強いられている。

事業者からは制限区域内なのでトイレは設置できないとの説明だが、空港管理者の鹿児島県はGSE(空港関係車両エリア)であつても、運用に支障がない仮設的なものは認められるとしている。

喜界町も建設費の約5割を負担しており事業者と話し合い追加工事で

トイレを設置すべきではないか。

【質問】

建設工事の総額、喜界町の負担額率はいくらか。トイレの設置ができない理由は何か。

【答弁】

企画観光課長

工事実績額で総額3348万円、町負担は予算通り1800万円である。

トイレは空港土木設置基準に合わないのでトイレ設置はできないと認識している。

【答弁】

町長

待合室は町がお願いをして事業者が作った。主体は事業者である。今の空港ビルが何十年も続くとは思っていない。それらを踏まえて事業者から言ってきたときはまた考える。

### 喜界空港既存待合室のトイレの故障は早く修理を

【質要】

男子トイレ個室のウォッシュレットが長期間故障している。事業者と喜界町で費用負担を巡って折り合いがつかないとも聞く。

困っているのは町民と来島者である。

水質も軟水に変わり詰まりにくくなってきた。修理を急ぐべきではないか。

【質問】

既存トイレ施設の建設時期、工事額、町の負担はいくらだったのか。

トイレ故障の内容、故障時期、修理の見積額はいくらか。水質はどうなっているのか。

【答弁】

企画観光課長

工事時期は平成20年度、費用は2982万円、全額町の負担で建設した。

故障時期は1年半前、ノズルの故

障、修理費用はノズル交換だけであれば2万円、奄美航空は希望する全部取り替えて30万円。  
何が改善できるか奄美航空と協議をしていく。

【答弁】

水環境課長

平成29年3月21日から硬度100前後で供給している。以前は高度320から330であった。トイレへの影響は石灰分が結晶化し付着するとは聞いている。

### 特老喜界園の民営化の進め方は問題ではないか

【質要】

執行部は民営化基本方針を作成した民営化検討委員会を町民に公開したとしているがその内容は公開と言えらるものであったのか。

また、特老喜界園の民営化は行財政改革大綱から逸脱していることは明らかである。

近隣自治体では民営化に際し町民の財産である土地・建物等を競争入

札をしたり移譲法人が自己負担で土地・建物等を用意した事例もある。本町は土地・建物とも無償である。特老喜界園の民営化はその是非から再検討すべきだと考える。

**質問**

民営化検討委員会の開催状況について伺う。開催日時、傍聴者数は何名か。防災無線の活用などで町民への案内はしたのか。議事録は作成したのか。

**答弁** 老人福祉施設長

昨年6月から11月の間で4回開催し傍聴者は1名であった。傍聴席は用意したが、町民へのお知らせはしていない。事前にお知らせできなかったことは反省している。

**質問**

本町で長いこと行財政改革に携わった副町長の所感を伺いたい。

**答弁** 副町長

国が市町村合併を推進する中で、町内外のさまざまな議論の上で、喜界町は合併しないことを決め、国の地方交付税の大幅削減の懸念もあった。それが行財政改革の背景であり、本町では行政のスリム化を進めてき

た。職員も200名から150名強まで減らしてきた。老人福祉施設の民営化は遅すぎたくらいで、特老喜界園も民営化の対象である。理解を願いたい。

**質問**

今回の民営化は進め方において問題が多い。改めて民営化の是非から検討すべきである。町長の認識を伺う。

**答弁** 町長

行政の継続性も大事だが、変わることも必要である。行政をできるだけスリム化して国の交付税を減らさなくても立ちゆく町政にしたい。多くの町民はわかっていると思う。



質問する  
幸一美 議員

**公園施設のバリアフリーについて**

**質要**

平成7年に開園した臨海公園は、ガーデンゴルフ場、多目的広場、ス

2点について伺う。

**質問**

スギラビーチの階段型消波ブロックに手すりの設置が必要と思うがどうか。また、同様に車椅子の利用者や高齢者、障害者の皆さんのためのスロープの設置が必要と思うがいかがお考えか。

**答弁** 企画観光課長

空港臨海公園は、20年以上が経過をしている。そのため経年劣化が見られる。今年度より役場内において、総合的な改修に向けた検討委員会を立ち上げたところ。開園当時の島内環境、それから利用者のニーズに違いがあることから、これから先の利用者のニーズをしっかりと捉えながら、安全、景観等に配慮した空港臨海公園全体構想の中で、広く町民の意見を伺いながら、高齢者、障害者の方も利用しやすい施設として、スロープや手すり等についても、多様な利用形態を含めた形で総合的に検討していく。

## 第61回奄美群島議会議員大会報告

去る5月16日徳之島町にて第61回奄美群島市町村議員大会が開催されました。県議会議員、市町村首長、市町村議員、関係者174名が出席し、各市町村が抱える問題について、議案が提出されました。喜界町は、龍郷町との議案提出となっており、今年、本町の議案提出となり次のことを要望しました。

### 喜界空港の整備について

#### (要旨)

喜界空港は1931年、旧海軍航空隊喜界基地として開設され、第二次世界大戦では南方への前線基地として重要視された空港であり、終戦直前には空襲を頻繁に受けた空港でもあります。1959年に滑走路1,080mでの供用が開始され、1968年に滑走路1,200mで舗装化され、1971年に第三種空港として指定され鹿児島県管理として現在に至っております。

過去において国の方針により空港拡張での滑走路延長の機会もありましたが、地権者の同意が得られず断念した経緯もございます。現在は鹿児島空港・喜界空港間に1日2便、奄美空港・喜界島空港間に3便が就航しており、住民、来訪者の足として、病院への移動手段として、また急病人の搬送の手段として、重要な役割を果たしております。

喜界空港は郡内の他の空港と比較し滑走路が短く、VOR(方位情報)、DME(距離情報)システムも整備されておらず、鹿児島からは奄美空港上空を経由し、パイロットの有視界飛行に頼っているのが現状です。そのため悪天候による視界不良等で着陸直前に引き返す場合や、目的変更を余儀なくされることが多々あり郡内での就航率は低い方です。

これまでの就航はサブ機が主流でしたが、昨年12月よりGPSを使用したRNAV進入を行う、ATR42・600型機が鹿児島と奄美往復に1便就航しており、今後他の便も順次同型に変えていくと聞いております。

RNAV進入は視程1,500m以上が必要で、目視に頼る現状では進入灯、滑走路灯が整備されると視程800m程度でも着陸進入が可能であるようです。今後は安全離発着のためには進入灯、滑走路灯の整備が必要です。現在の空港は滑走路と周辺フェンス間の安全地帯の確保が不十分であるとの指摘もあります。この機会に将来の空路充実のために滑走路延長も合わせて整備される様、特段のご配慮を強く要望いたします。



力強く要望する榮哲治議員  
(総務文教常任委員長)

### 自治功労賞の表彰

大会では、町村議員として10年以上在職した議員に自治功労賞の表彰があり、本町から榮哲治議員が表彰を受けました。





## 現地視察研修報告（伊仙町特産品加工工房）

議員大会に合わせ5月15日伊仙町にて現地視察研修を行いました。伊仙町が建設し、民間企業に事業運営を委託する特産品加工工房を視察しました。黒糖その他さとうきびの加工品の製造を中核としながら、農林水産物を利用した特産品の製造・販売等付加価値の向上に取り組み、地場産業の活性化就業機会の創出及び地域の産業振興を図っています。

〈概要〉	稼働時期	平成26年3月
	建築面積	528,758㎡
	運営管理者	(株)徳之島かんかんファーム
	総工事費	2億5,000万(国費・9,300万)

### 〈運営実績〉

年度	圧搾日数(日)	圧搾量(kg)	黒糖出来高(kg)
平成26年度	93	197.590	24.750
平成27年度	121	404.590	43.480
平成28年度	119	391.535	43.259

### 〈工場運営の取り組み〉

- ① 原料のさとうきび刈取り作業を、ハーベスターで行う事で作業の効率化を図っている。
- ② 圧搾機は、ハーベスターで刈り取った25cm程度のさとうきびでも圧搾できるよう整備されている。
- ③ 水蒸気釜でさとうきび汁を炊くことで、作業の効率化はもちろん経験がない方でも商品が作れる。
- ④ 商品は、共同で事業を行う、全国の事業所へ納品している。(福岡県、三重県、山形県等)



伊仙町特産品加工工房



現地視察研修風景

### 所見報告

行政と民間企業の連携で、基幹作物のさとうきびを新たな形で加工販売に挑戦していることに、感銘を受けました。さまざま問題もあったようですが、島内の製糖会社とも連携を図りお互い向上効果をもたらすべく取り組んでいます。また現代に合わせた雇用形態、最新の機械等を導入した作業形態にすることで、安定した運用に取り組んでいると感じました。少子高齢化に態様しながらも、若者へ新たな雇用確保の取り組みに繋がっていくのではないかと感じました。

他の自治体の取り組みを参考にし、動向も注視し時代の流れも感じながら、本町にあった取り組みを開拓していかなければならないと考えます。

## 所管事務調査報告 大崎町視察



した良質な農畜産物が育まれております。  
総務文教委員会では、ふるさと納税について調査報告いたします。

●平成26年度に農業施設整備、公共施設整備費、加えて扶助費の増大等による予算史上最悪の財政危機に見舞われ、町長よりふるさと納税による財源確保の指示が出され、ふるさと納税推進検討会議が発足した。

●地元の食材を生かした加工品開発や販路開拓について、食品産業、商工振興、観光振興の3分科会に分かれ、意見交換をし、ふるさと納税後を見据え、事業間同士が連携して新商品の可能性や販路拡大の手法を模索した。

●成果、平成27年度に全国4位の寄附金27億円を集め、約6万3,700件の寄附を達成。

●返礼品は特産のウナギや牛肉、マンガーなど、約50事業者が用意しており、豪華なふるさと応援寄附金特典カタログを作成し、全て町内で生産加工しており、返礼品の

資質には自信があり、また、他の自治体よりも取り組みが早かったのが、大きな成果を上げる要因だった。

大崎町にとって、ふるさと納税のメリットは、生産者などの販路が開拓され、地域が活性化されている。

●返礼品の生産などに多くの業者がかかわるようになり、これまでない動きが出てきました。雇用も確実に生まれている。

●寄附金の使い道は、小中学校への電子黒板導入、図書、パソコン購入、椅子、机の一斉交換、中学校入学時3万円の補助金、高校生までの医療費無料化など、主に人材育成に使われている。

●人口減少が深刻なまちにとっては貴重な財源で、大変ありがたいとのことである。

●総務省は昨年4月に、返礼品の仕入れ価格を給付額の3割を超えないよう自治体に求めたが、仕入れ価格の割合をどのようにするかは

各事業者に任せてきた。おおむね3割程度になってはいるが、業者によつては、利益は少なくても多くを出したいという意見や、その逆もある。市場の反応を見ると、意味合いもあり、業者の自主性を奪うことに不安はあるが、通知を踏まえた見直しが必要である。

今後のふるさと納税の取り組みとしては、金額だけを追い求めるのは危険という認識を事業者と共有していた。現在は繰り返し納税してくれるリピーター、大崎ファンを獲得に力を入れている。

また、ブームはいずれ終わり、平成28年度の給付金は16億7,000万円で、前年度の27億円を大きく下回った。

●今後は物をアピールするだけでなく、いかにまちの魅力を発信できるかが大切である。また、ふるさと納税ブームのその後を見据えた動きで、通信販売会社と連携し、返礼品として送っている特産品のインターネット通信に乗り出した。

●官民一体で知恵を絞り、地域活性化につなげていきたいと最後に締

### 総務文教常任委員会

総務文教常任委員長 柴 哲治

去る1月28日、鹿児島県市町村議員研修会が鹿児島市で開催された機曾を利用して、リサイクル率10年連続日本一と、ふるさと納税で県内トップクラスの寄附金を集める大崎町へ、所管事務調査に行つて来ました。

大崎町は鹿児島県の東南部に位置し、人口1万3,000人で平成の大合併未経験自治体であります。

主な産業は農業と水産業で、豊かな水産物を初め、温暖な気候を生か



めぐくり、ふるさと納税担当者、竹原係長の熱い思いに議員一同感動した。

### (所感)

本町でも、地元食材を生かした加工品開発や販路拡大が、まだまだ不十分であると思います。また、旅行者と連携して、生活の余裕のあるシニア層などの参加を見込んだ観光ツアーを計画して、島のヤギ料理等の食文化や伝統芸能文化などを体験させる方法もあるかと思えます。

官民一体となり知恵を絞れば、本町のふるさと納税はまだ増えると思います。

寄附金が増えれば、子供たちのための人材育成に大いに役立つと思えました。

## 産業福祉常任委員会

総務文教常任委員長 安田 英次郎

産業福祉常任は、ごみの焼却施設が存在しないまちとして、ごみの分別、リサイクル等について、10万人規模の市町村では、連続日本一という表彰を受けています。人口は1万3,000人余りしかない町なのですが、10万人規模というのは隣が志布志市でございまして、志布志市を含めて今現在は、リサイクル事業

が10万人規模になっております。そういう関係で表彰を受けております。

産業福祉常任委員会では、ごみのリサイクル事業について調査報告致します。

●清掃センター、それまでは清掃センター埋め立て処分場で、その設立がなされて、平成2年より埋め立てを開始している。初年度の埋め立て量が1万トン余りだったが、わずか9年で1万7,000トン余りという計画期間を16年と見込んで平成16年まで計画していたが、それまではもたないということ、その対策として三つの選択肢が求められた。

①焼却炉を建設するか。それに対しては、建設費や維持の問題がある。



②新たな埋め立て処分の延命化を図る。そういうことで、新たな処分場の建設をする。それには、周辺住民の反対がある。

③既存の埋め立て処分場の延命化を図るために、ごみの分別、ルールの策定等を自治体で行うこと。

●上記の選択肢の中から③を行い、住民説明会を地域150カ所で行い、分別リサイクルの実施をすることとなり、その時期にちょうど地元の民間企業である、し尿取り扱い業者がリサイクル事業へ参入を表明し、ちようど行政としても渡りに船だった。行政の委託という形で民間企業がリサイクルセンターを設置、稼働している。

●平成25年4月から、現在27品目分別されている。リサイクル率は83.2%。



●生ごみは大崎有機工場、これも民間施設で、完全堆肥化されている。その堆肥はキロ当たり5円で、生産、販売している。その堆肥を利用し、圃場の農家が多い地域であるため、菜の花エコプロジェクトを立ち上げて、完全堆肥を利用し、菜の花畑でとれる菜種油、100%の菜種を生産、また菜の花石けん等も生産、販売している。

●家庭から集める廃食用油、油も回収し、燃料化し、ディーゼルエンジンの代替燃料として、ごみの収集車の燃料としても活用されている。

●大崎町のリサイクルセンターで、近隣自治体も合わせ10万人分の資源ごみを取り扱っていて、この民間リサイクル事業所は40人の雇用創出に繋がっている。

●海外の事業展開も行っている民間企業である。

●平成10年で4,382トンの埋め立てごみが、平成28年度で、わずか734トンと埋め立てはほとんどなされていない。

●埋め立て物は、特におむつ類ぐらいで、ほかのものは、ごみはほと

んど埋め立てされていない。

●役場の行政としての役割は、各150ヶ所の自治体、集落のリーダー等の研修を行って、自治体の役割としては、ごみの分別収集に協力し、民間事業者は、町の委託料でやっている。

●資源ごみの売買物件も年間760万程度で。全ての収入も自治体に還元されている。

### (所感)

民間事業者ならではのリサイクル、ごみの収集事業であると感じました。我々の市町村もごみの分別はもつと増やしていく必要があるのではないかと思えます。一番問題は、生ごみです。生ごみをできるだけ出さないような啓発も必要ではないかと思えます。



## 議会のうごき(6月～8月)

- 6月4日 平成30年第2回喜界町議会定例会(一般質問等)
- 6月5日 常任委員会(補正予算等審査)
- 6月6日 につぼん丸入港歓迎式典参加
- 6月11日 平成30年第2回喜界町議会定例会(最終本会議)
- 6月22日 喜界島漁業協同組合総会 議長
- 6月23日 奄美・屋久島交流懇談会(奄美市)議長
- 6月24日 鹿児島県消防協会大島支部消防操法大会(大和村)議長
- 7月18日 平成30年度防衛省全国情報施設協議会総会(東京)議長
- 7月24日 子ども議会(喜界町議会議事堂・委員会室)
- 7月25日 鹿児島県監査協議会研修会(鹿児島市)峰山議員
- 8月2日 市町村政研修会(鹿児島市)全議員
- 8月31日 喜界町議会運営委員会

次回  
定例会

次の議会は、  
9月上旬を予定しています。

午前 9:30 皆様の傍聴をお待ちしています。

●お問い合わせ先 65-1115

## 諸般の報告

議長 外内 千里

議長報告をいたします。7点ございます。

1点目、4月26日、県庁講堂において、平成30年度県政説明会が開催されました。県下市町村長、議長、県市長会、県町村会、県町村議会議長会の各事務局長等が出席いたしました。三反園知事が挨拶の中で本年度の主要施策について触れた後、総務部県民生活局等、12の部局長より今年度の県政の説明がなされました。

2点目、5月1日、奄美市において、公明党ティダ委員会と奄美大島本島、喜界町の市町村長と議長による意見交換会が開催されました。公明党からはティダ委員会委員長の遠山衆議院議員ほか国会議員、県会議員が来島し、国土交通省から3名の職員、広域事務組合の職員が出席し、各市町村の課題について要望、対応策が話されました。

3点目、5月8日、鹿児島市において、離島振興市町村議会議長会研修会総会が開催されました。研修会

は、「本県における再生エネルギーの導入促進について」の演題で、鹿児島県企画部エネルギー政策課長本多氏による再生エネルギーの状況、国の施策、県の導入状況、導入ビジョン、30年度の取り組み、離島における導入促進についての説明がなされました。臨時総会では欠員が生じた監事に長島町の林議長が選任されており、翌9日の午前中には、鹿児島県町村議会議長会の臨時総会が開催され、任期満了に伴う役員改選がなされました。会長に中種子町の鎌田議長、副会長に錦江町の水口議長、天城町の前田議長、理事に長島町の林議長、与論町の福地議長、監事にさつま町の平八重議長、肝付町の恒吉議長が選出されております。

4点目、5月16日に徳之島で開催されました第61回奄美群島市町村議会議員大会出席のため、空路、天城町に入りました。途中、黒糖工場を視察のため、伊仙町を訪問いたし、美島議長、経済課原根課長補佐の出席を受け、案内をしていただきました。施設は伊仙町がつくり、民間業者に委託をしているもので、委託を受けている株式会社徳之島かんかんファームの代表取締役の大竹氏によれば、自社管理のサトウキビを

ハーベスタで刈り取り、ボイラーの蒸気でサトウキビのしぼり汁のみで黒糖を製造しており、工程も大竹氏みずからの設計で、通常熟練工でなければ炊けない黒糖であるが素人でも対応できるとの説明でした。また、大竹氏は町の堆肥センターの委託も受けており、良質の完熟した堆肥を製造しております。議員大会では、龍郷町、喜界町からの提案議題「喜界空港の整備について」を、総務文教常任委員長の榮 哲治議員が提案理由の説明を行っております。また、自治功労者として、本町からは榮 哲治議員が受けております。

5点目、5月22日、奄美市で開催された各種協議会に出席いたしました。奄美群島広域事務組合臨時総会において、教育委員に宇検村教育長の村野巳代治氏、副管理者に奄美市の東美佐夫氏の人事案件が同意されております。

6点目、5月26日、県総合体育センター体育館において、明治150年記念式典が開催されました。会場は国会議員、県会議員、各市町村長、各議長、教育長、大勢の小学生、中学生、高校生で埋め尽くされている中で、秋篠宮文仁親王、親王妃のご列席のもと開催され、式典第一部で

は主催者の知事の挨拶、皇室のおことは、国会議員等の来賓の挨拶の後、小学校、中学校、高校生それぞれ2名の代表者と100周年記念式典で登壇者の一人に選ばれた方の県民決意のことは述べております。2部においては、公開ディスカッション「薩摩藩英国留学生に学ぶ」を題材とし、知事が5名の高校生にいろいろな思いを尋ねる形式で開催され、会場の多くの学生たちが熱心に聞き入っております。

7点目、5月28日、東京国際フォーラムにおいて、町村議会議長・副議長研修会が開催されました。「これからの町村議会を考える」をテーマとして、山梨学院大学法学部教授の江藤俊昭氏の講話の後、長崎県小値賀町の議長「議会の機能と使い道と議会の立ち位置の有効活用」の事例、福岡県大刀洗町議長の「住民に向き合った議会運営と広報づくり実践」、徳島県那賀町議会改革調査特別委員長の「議会活性化の取り組み」の事例発表があり、大変有意義な会であり、本町でも見習うべき点が多々あると思われました。

以上で報告を終わります。



喜界島に赴任して思うこと

喜界小学校教諭 茶屋道裕三

「喜界島の人は心優しい。」

これは、社会科の授業で「喜界島の自慢できるものは何？」との問いに、何人も子どもたちが答えたものの一つです。もちろん、その他にも海・珊瑚礁などの自然の美しさや、さとうきびごまなどの特産品も答えます。私は、喜界小学校に赴任して三年目を迎えています。この間、ずっと三年生を担当しています。三年生の社会科では、自分たちの住んでいる町の様子などを調べ、より深く自分たちの町を知ること、町に誇りをもつなど、郷土愛を育てることが目標の一つになっています。この三年間、子どもたちの答えの中に、必ずこの「人が優しい」というものがあります。これは、私がこれまで勤めていた学校では無かったことです。子どもたちが答えたように、喜界島の人の温かさや優しさは私自身も実際に感じています。例を挙げますと、壮年ソフトボール大会、同窓バレーボール大会、集落の行事や島遊びなどにお誘いの声をかけていただいています。また、その夜の反省会(飲ん方)にも参加させていただきます。PTA行事での保護者との交流、スーパーでの買い物の際のレジでの何気ない会話、飲み屋さんでのご主人との会話など……。さまざまなか所で出会う方々は、皆さん心の温かさや優しさが溢れています。このような保護者や地域

の方々で育てられた子どもたちは、自然と心優しい子に育っていくのでしょうか。

この原稿は、「議会だより」に掲載されるということですが。これまで議員の方々とも交流がありました。私は、「さとうきびの会」「喜界の子どもの未来を考える会」に参加させていただいています。これまでの諸会合に、議員の方々も積極的に参加してください、ご意見やアドバイスをいただきました。議員の方々の喜界島を愛する想いが伝わりました。それらの活動が実り、本年度より、喜界高等学校に大島養護学校の「喜界支援教室」が設置されました。これは、「さとうきびの会」のさまざまな取組と地域の方々の署名などへの協力があつたからだと思います。また、「大島養護学校の分教室または特別支援学級の設置を求める請願書」を採択していただいた町議会の力添えが大きかったと思います。今後も、未来ある子どもたちのために、さまざまな場面や機会で、議員の方々のさらなるご協力とご支援を期待しています。

最後に、私のような一教諭に寄稿の機会をいただいたことに感謝いたします。私は、この喜界小学校で定年を迎えることになりました。新たな任地に赴任する教職員に「その学校の子どもを愛し、その地域を愛せ。」という言葉があります。定年まであとわずかですが、私もさらにこの喜界島を愛し、微力ながら子どもたちの教育に携わっていきたいと思います。そして、子どもたちもふるさと喜界島をさらに愛するように育つてほしいと願っています。

## 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。町民の皆様におかれましては、日頃より議会活動に対し多大なるご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて議会議員改選から早くも三年目を迎えております。我々新人議員にとっては激動の毎日でありましたが、定例会や日々の活動を通し、喜界町が抱える様々な課題や将来への展望を強く再確認する事ができました。

議員として批判やチェックも大事ですが、政策提案型の(町民の為の議会)にしていかなければいけないと思います。まだまだ町民との会話が足りていません。いつでも気軽に議員に声をかけて頂けたら幸いです。

町民が生きがいをもち安心して暮らせるよう議会同全力で取り組んでまいります。

最後に読者の声を心良く引き受けていただいた喜界小学校教諭の茶屋道先生に感謝申し上げます。茶屋道先生は島の子供たちに本気でぶつかりダメな事はダメ、良い事には本気で褒めてくれる真っ直ぐな先生です。島の未来を担う真っ直ぐな子供たちが将来島で活躍する姿が目に見えます。

議会広報委員 榮優太